

放送人の会

No. 2. 1998. 6. 3

放送人の会会報

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町1-1

千代田放送会館3階

電話・FAX (03) 3221-0019

動き始めた放送人の会

「牛山純一・上坪隆／人と作品」

研究シリーズ&シンポジウム

「THE・TVキャスターズ・LIVE・IN・」

増上寺

二つのイベント、日程決まる

会員の積極的な参加を!

会としての初の活動がこの六月に二つ実施されることになった。一つは主催、一つは後援である。

会の発足当初から、「放送人の会」としての活動の一つでも二つでもできるだけ早く実施しよう、という声がかつた。

具体的な活動が行われることが、会の存在を多くの人に知ってもらう最良の方法であろうし、会の性格や目的もそれによって明らかになっていくだろう。「放送人の会」は、どんな人がいるかではなく、どんなことをするか、が大事なのではないか、といわれてきた。

それに沿って月例の幹事会のほかに数次にわたる臨時幹事会、世話人会が行われ、具体的な活動の提案をどうやって検討のテーブルに乗せるか、実行体制をどう組むか、が議論されてきた。

その結果、会として活動やイベントを実行する場合の一応のルールが作られた。今行われる二つの催しは、そのルールに沿って実施される

初めての活動だ。

今後新しい試みが行われるたびにルールは次第に整備されることになるだろうが、この二つのイベントは、活動のモデルとしても大きな意味を持っていると思われる。

今回の催しを成功させるために、会員各位は、どうか一日でも二日でも、時間を割いて催しに参加して頂きたい。

「牛山純一・上坪隆／人と作品」

研究シリーズ&シンポジウム趣旨

この催しの趣旨を、事業担当幹事の今野勉は、以下のように説明した。

「放送人の会」は、長い準備のあと、一九九七年二月一日に発足しました。

「放送人の会」は、番組の制作現場にたずさわっている者、たずさわっていない者が、組織を超え、職種を超え、地域を超え、年代を超えて集い、放送にまつわるさまざまな問題についての情報を交換し、発信する場を持つことを目的に、結成されました。

また、放送人自身（次頁一段目へ）

「研究シリーズ・放送人の世界」第1回

「牛山純一・上坪隆／人と作品」

主催 放送人の会
後援 日本放送協会
日本民間放送連盟
放送文化基金
協力 日本テレビ放送網(株)
日本映像記録センター
RKB毎日放送

開催場所：NHK放送博物館ホール（東京都港区愛宕2-1-1）
開催日程：6月19日（金）～7月24日（金）毎週金曜日午後、連続6回（詳細下記）
入場料：無料、ただし資料費として各回1,000円。

① 6月19日（金）13時15分～17時

牛山純一の人と作品（1）「多様な民族文化」

「石器時代へのたび ミイラをつくる村」 D：豊臣 靖 25' 1969
「クラ 西太平洋の遠洋航海者」 D：市岡康子 67' 1971
「鳥葬の国ムスタン」 D：杉山忠夫 50' 1977
「鯨を追うエスキモー」 D：野呂 進 25'（変更あり）

コメンテーター 石川栄吉（文化人類学）
杉山忠夫・市岡康子（日本映像記録センター）

② 6月26日（金）13時15分～17時

牛山純一の人と作品（2）「テレビドキュメンタリーの黎明」

「特集・第19国会」 D：牛山純一 25' 1954
「老人と鷹」 D：西尾善介 25' 1963
「忘れられた皇軍」 D：大島 渚 25' 1963
「世界の屋根のヒゲドクター」 D：池松俊雄 25' 1963
「多知さん一家」 D：市岡康子 25' 1965
「ある国鉄乗務員」 D：土本典昭 25' 1964
「水俣の子は生きている」 D：土本典昭 25' 1965

コメンテーター 土本典昭（ドキュメンタリー作家）

③ 7月3日（金）13時15分～17時

牛山純一の人と作品（3）「アジアへの視点」

「ベトナム海兵大隊戦記」 PD：牛山純一 50' 1965
C：石川文洋、木村 明
「戦いのあくる日」 D：豊臣 靖 25' 1968
C：石川文洋、木村 明
「中国の新しい風 上海の市民と暮らす」 PD：牛山純一 72' 1978
コメンテーター 石川文洋（カメラマン）
聞き手 市岡康子（日本映像記録センター）

④ 7月10日（金）13時15分～17時

牛山純一の人と作品（4）「原点に還る」

「あの涙を忘れない 日本が朝鮮を支配した36年間」 PD：牛山純一 90' 1990
「カラハリ砂漠殺人事件 ブッシュの英雄はなぜ死んだのか」 PD：牛山純一 90' 1995
コメンテーター 鈴木嘉一（読売新聞）
聞き手 今野 勉

⑤ 7月17日（金）13時15分～18時

上坪隆の人と作品

「引揚港・博多湾」 PD：上坪 隆 45' 1977
「戦犯たちの中国再訪の旅」 PD：上坪 隆 30' 1978
「遠賀川のうた」 PD：上坪 隆 55' 1981
「ルイズ・その絆は」 PD：上坪 隆 55' 1983
「Oh! わがライン川」 PD：上坪 隆 75' 1985
コメンテーター 赤井朱美（石川テレビ）

⑥ 7月24日（金）13時15分～17時

シンポジウム「記録する者の精神を見つめて～牛山純一・上坪隆の残したもの～」
パネリスト（予定） 石川栄吉、鈴木嘉一、赤井朱美、市岡康子
（ほか交渉中）

司会 今野 勉

問い合わせ：放送人の会（03-3221-0019）

(次頁より) の業績を検証し、記録し、伝承することもその目的の大きなひとつです。

「放送人の会」の発足を目前にして、不幸にも準備の中心にいた牛山純一さんと、いち早く呼びかけに応じて発起人となった上坪隆さんが亡くなりました。お二人とも、すぐれたドキュメンタリストでした。

一九五三年に日本テレビに入社した牛山純一さんは、一九六一年から制作を始めた「ノンフィクション劇場」以来、一貫して制作現場に立ちつづけ、一九七一年に日本映像記録センターを設立してからも、プロデューサーとして、ディレクターとして、リポーターとして、数多くのドキュメンタリー番組を世に送り出し、一九九七年九月二八日の「推理ドキュメント・アンコール遺跡盗難事件」の放送のわずか九日後に亡くなりました。上坪隆さんは、一九五八年にRKB毎日に入社しましたが、制作現場に転じたのは一九七二年になってからでした。以来、ディレクターとして、歴史を直視するドキュメンタリー番組を精力的に作りつづけてきました。

「放送人の会」に熱い想いを抱いていた上坪さんでしたが、退職したその翌日に亡くなりました。「放送人の会」は、制作現場に立つことに執着して生きた二人の放送人の残したものを引き継ぎ、放送の「今」を、放送の「未来」を考えるよすがにしたいものと思ひ、二人の作品研究シリーズとシンポジウムを、「放送人の会」の最初の行事として催すことにしました。皆様の積極的な参加を強くお願いする次第です。

このキャスト・ライブは、会員の金平茂紀さんから世話人会の席上で提案があったもので、「放送人の会」は後援することになった。以下に実行委員会が発行したチラシを転載する。

THE・TV・キャストズ・LIVE・IN・増上寺

* * *

日時； 6月13日(土) 午後2時～午後6時30分(午後1時半開場)

会場； 増上寺会館2階講堂(東京都港区芝公園4-7-35)
JR山手線・浜松町駅下車(北口)、歩10分
都営地下鉄三田線・芝公園駅下車歩3分

参加者； 真山 勇一 (NTV系「ニュース・プラス・ワン」)
筑紫 哲也 (TBS系「筑紫哲也NEWS23」)
田丸美寿々 (TBS系「報道特集」)
笹栗 実根 (フジテレビ系「ザ・ヒューマン」前キャスター)
田原総一郎 (テレビ朝日系「サンデー・プロジェクト」)
鳥越俊太郎 (テレビ朝日系「ザ・スクープ」)

進行； 石高 健次 (朝日放送)、金平 茂紀 (TBS)

参加者； 会場のキャパシティーは最大300くらいです。
会場入場者からは、会場費としてお一人1500円いただきます。

主催； 同実行委員会

後援； 放送人の会(03-3221-0019 ただし 月・水・木のみ)

テレビのニュースや報道番組の顔になっているあの。今や、世の中で起きていることがらを私たちが知るの、あの人達の表情と語りを通してであると言っても過言ではありません。テレビのキャスターたちの影響力は絶大です。けれども、さまざまな制約、制限の中で、伝えられなかったこと、伝えきれなかったこともあるでしょう。いや、もしかすると、キャスターとは、この情報社会のなかで、「何者」かの「操り人形」という側面だってあるのかもしれない。

21世紀をまもなく迎えるにあたって、TVキャスターが進行役をつとめるという現在の形のテレビニュース・報道番組は、どのように変化して行くのでしょうか？

多チャンネル化・デジタル化の流れは、テレビニュースの質をどのように変えて行くのでしょうか？

まあ、考えてみますと、「会社の壁」のようなものに阻まれて、キャスターたちが忌憚なく自分たちの考えを言いあえる共同の場は、これまでなかなか実現しませんでした。今回は、肩の力を抜いて、とにかく集まっていろいろ話してみようじゃないか、というのが、会の趣旨です。会場はお寺、時間も4時間30分とっていますので、出入り自由。題して「THE・TVキャストズ・LIVE・IN・増上寺」。緊張感を保ちながら生でドラドラやりませんか。

活動の実施について 決定されたこと

討議の結果まとめられた活動実施のルールは、概略次のようなものである。

活動、イベントを提案する者は、まず幹事会に計って「放送人の会」の活動としての承認を受ける。そして協力者を求めて自らチームを作り、提案した活動を実施する。つまり基本的ににはすべて自前でやる、ということだ。

もちろん幹事会や事務局は協力を惜しまないが、提案を事務局、幹事会に預けて実行を任せる、という方法は当面とれない。各自が多忙な幹事会、事務局にはそれだけの余力がないのが実状である。

また予算の点では、活動の規模や費用に合わせて若干の補助はできるが、財政基盤が確立するまでは、できるだけ活動が独立採算で行われるよう努力する。

六月の二つの活動も、この方法で行われる。

どうか会員の皆さんも、ホットでスリリングな企画を考えて、実行してみてください。まずアイデアを事務局にお知らせいただき、幹事会で一緒に実現のために方策をさぐりましょう。素材の収集、機材の調達、会場の確保、講師やパネラーの人選など、会員の経験と知恵を出し合える場面は多いと思います。

「放送人の会」 世話人

- 赤井 朱美 (幹事)
- 磯野 恭子 (幹事)
- 市岡 康子 (幹事)
- 遠藤 利男 (幹事)
- 大蔵 雄之助 (幹事)
- 大原 勝利 (幹事)
- 大原 美 (幹事)
- 岡崎 勝栄 (幹事)
- 勝部 領樹 (幹事)
- 加藤 静夫 (幹事)
- 加藤 茂樹 (幹事)
- 金平 清紀 (幹事)
- 川口 朝一 (幹事)
- 鴨下 信一 (幹事)
- 川口 幹夫 (幹事)
- 木村 栄枝 (幹事)
- 合津 直文 (幹事)
- 河野 晋宏 (幹事)
- 近藤 野 (幹事)
- 今野 勉 (幹事)
- 斎藤 以玖子 (幹事)
- 坂本 良江 (幹事)
- 澤田 隆治 (幹事)
- 関口 達夫 (幹事)
- せんぼんよしこ (幹事)
- 田原 茂行 (幹事)
- 塚越 爾 (幹事)
- 塚越 康夫 (幹事)
- 野崎 康夫 (幹事)
- 野崎 宏一郎 (幹事)
- 野崎 茂 (幹事)
- 橋本 佳子 (幹事)
- 久野 浩平 (幹事)
- 平野 日出夫 (幹事)
- 福田 雅子 (幹事)
- 藤井 深 (幹事)
- 堀川 とんこう (幹事)
- 松前 洋一 (幹事)
- 村木 良彦 (幹事)
- 山崎 裕 (幹事)
- 吉永 春子 (幹事)
- 吉村 育夫 (幹事)
- 和田 勉 (幹事)

(アイウエオ順)